

東広島市バイオマス産業都市構想の概要

広島県東広島市、人口約19.3万人、面積 約6.4万ha

構想の概要

東広島市に立地する多様な研究機関、行政機関を始めとした産官学民の連携により、木質バイオマスの活用を推進、環境先進都市の構築を目指す。

1. 将来像

- ①「都市と農村の近接性」を活かしたバイオマス循環サイクル
- ②「大学・試験研究機関や環境産業等の集積力」を基にした産官学民による推進体制
- ③「広域交通ネットワーク」を軸とした市発信の波及効果

3. 目標(10年後)

- ①廃棄物系バイオマス（全利用91.7%）
 - ・家畜排せつ物、下水汚泥：100%
 - ・製材残材、剪定枝、事業系食品廃棄物：80～90%
 - ・河川等刈草：30%
- ②未利用バイオマス（全利用40.2%）
 - ・ゴルフ場の刈芝、枯枝等：100%
 - ・林地残材、果樹剪定枝：80～90%
 - ・もみ殻、稲わら：35%

5. 実施体制

- ・事業の進捗管理は「事務事業評価シート」等により、東広島市が実施。
- ・民間事業者等の実施主体と市が連携し、事業化プロジェクトに取り組む。

2. 事業化プロジェクト

- ①木質エネルギープロジェクト
 - ・林地残材等をチップ、ペレット化し販売
 - ・林地残材等の集積
 - ・バイオマスボイラー、ペレットストーブの普及
- ②菌床きのこプロジェクト
 - ・森林資源より菌床、きのこを生産
- ③たい肥化プロジェクト
 - ・牛ふんたい肥に混用する有機物（木質、廃菌床、食品廃棄物）毎の試験的製造

4. 地域波及効果

- ①経済波及効果 44.9億円
- ②新規雇用創出 51名（パート従業員含む）
- ③その他の波及効果
 - CO2排出量削減、ブランド商品の生産拡大、モデル地域化、環境教育効果

6. その他

- ・「第四次東広島市総合計画(H20.2)」
- ・必要に応じて周辺自治体や県等の関係機関とも連携を図る
- ・「東広島市バイオマス活用推進計画」(予定)

東広島市バイオマス産業都市構想

本市の優位性を活かしたバイオマス産業都市

都市と農村の近接性

中心市街地と中山間地域との時間距離約 30 分の優位性を最大限に発揮した循環サイクルの構築

本市の特性である『都市と農村の近接性』を活かし、都市における企業活動・市民活動等に伴う消費と、農村におけるバイオマスエネルギーの生産とが、それぞれの機能を果たしながら、かつ相互間でのロスが少なく良好な状態で循環するサイクルの構築を目指す

広域交通ネットワーク (広域的な視点での波及効果)

広島県のほぼ中心に位置し、道路ネットワークが整備されたアクセス性を活かした波及効果

広島県の瀬戸内側、ほぼ中央に位置し、道路ネットワークの整備も着実に進んでいることにより、県内各方面へのアクセス性が高まっています。そのメリットを最大限に活用することで、その利用面から新たな研究開発・実用化等も含め、これらを多方面に幅広く効果的に波及させ、広域的な視点での波及効果を目指し

大学・試験研究機関 環境産業等の集積

国際学術研究都市としての強みを発揮し、「産学官民」が一体となった推進体制による構想実現

広島大学、近畿大学工学部、広島国際大学等の学術機能や、国や民間による各種の試験研究機関のほか、多様な環境産業等が集積する本市の強みを最大限に発揮し、産学官民による『オール東広島』の推進体制で構想の実現を図ります。

スターティングプロジェクト(事業化プロジェクト)

① 木質エネルギープロジェクト

産業廃棄物となっている森林資源(林地残材や危険木、公共工事に伴う伐採木等)の有効活用の観点から、チップ・ペレットを製造するための『賀茂バイオマスセンター』を整備し、森林組合主体の運営を行うことで、市内での森林資源の循環を図ります。

- ◇ チップ・ペレット製造供給事業
- ◇ 木の駅運営・薪供給事業
- ◇ バイオマス熱利用設備導入事業
- ◇ ペレットストーブ普及のための実験・調

② 菌床きのこプロジェクト

木質エネルギープロジェクトで収集した森林資源をチップ・おが粉に加工し椎茸の菌床として利用します。林産物を生産することで、森林の保全及び里地里山の再生が促進され、雇用の創出が効果として期待されます。また、きのこ育成期間中に熱処理が必要な場合は、可能な限りバイオマス熱利用設備を導入し、効率的なエネルギー循環を図ります。

③ たい肥化プロジェクト

市内で発生する食品残渣や木質バイオマス資源として利用できない森林資源(枝葉の部分)、菌床きのこプロジェクトで廃棄される菌床を中心にたい肥化し土壌還元を推進し、資源の地域循環を図ります。

